

# 仕合わせの和



第221号

令和2年 8. 1  
(毎月1日発行)

## お盆を迎えて

住職 谷川寛俊

お盆の由来については、皆様よくご存知のことと思います。お釈迦様の十大弟子のお一人で目連尊者（もくれんそんじや）の母親が、餓鬼道という苦しみの世界から救われたことに始まります。お盆の3日間（十三日〜十五日）各家にお伺いし、ご先祖様へお経をお唱えさせていただきます。浄土真宗以外の宗派は、ほとんどのお檀家様へ伺っております。お盆は、死者と生者の交流であり、「死者」を通して我が身を振り返る行事でもあります。

私が学校を卒業して、お寺に帰って来て2、3年後東京近郊、一都三県に真成寺のお檀家様が数軒あることが分かり、過去帳やお墓を調べ判明したお宅へご案内状を差し上げ、お盆経に回り始め、今年で四十七年目

になりました。当初は十二軒でしたが徐々に増え始め現在では二十四軒になりました。今年も例年の如く、七月十日〜一週間行つて参りました。今年はコロナ禍の中で自粛ムード。果たして行つて良いのかどうか大変迷いました。でもどうしても行かねばならない大切な二軒の約束ごとがありました。その一つは新築された家のご祈祷。もう一つは一周忌の法要でした。当初この二軒を勤めさせていただき、帰つてこようかとも思つたのですが、「こういう非常事態の時こそ来て頂いて、御先祖様の御供養とコロナ疫病退散のご祈祷をお願いします」という声に励まされ、背中を押されたような気持ちになり、満を期して行つて参りました。電車の中では、吊り革や手すりなどに掴まらないように注意を払い、携帯用の消毒液を常に使い、マスクうがい手洗いを励行し、宿泊先のホテルではお弁当を部屋でいただきました。

今でこそ地図を持たなくても行けるようになりましたが、今から

半世紀前の学生の頃は、都内の地下鉄は今日の様に便利ではなく、あちこち工事中で猛暑の中大変な思いをして回つたことが懐かしく思い出されます。

本当にどのご家庭も、御先祖様を大切にされ、皆さまご熱心な方々で、心から私を迎え入れて下さり、有り難く感激の極みです。その中に横浜のあるご家庭に何時ものようにお伺いし、帰り際に「一軒隣の家に是非立ち寄つて頂けないでしょうか？」と勧められ、ご案内していただき、話を伺うと、当時八十六歳で品の良いお婆ちゃん。「私は熊本から嫁いできました。私の実家も日蓮宗で、小さい頃から両親が毎朝仏壇の前で『むじょうじんじん、みみょうのほうは：』という声を、耳にタコができるくらい聞かされていました。毎年この時節になると、お隣の家で聞こえるお経が大変懐かし、ぜひ御仏壇でお勤めをお願い

### 真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268  
携帯 080-3744-2523  
こちらの番号でもお寺につながります。

できないでしょうか？」との事でした。それ以来のご縁で、毎年お伺いしています。今では息子さんご夫妻ご家族一同で、母親のシツカリとした信仰心を受け継いでおられます。核家族化が進み、親と離れて生活する傾向が主流となった今日、孫達に親や祖父母の後ろ姿を見せる機会が無くなつてきました。特に仏壇の前に座つて頭を下げている姿は、日本の素晴らしい文化でした。

世界中に感染した新型コロナウイルスによつて世の中が変わりつつあります。しかし変えてはならない大切なものもあります。どうか今年のお盆は、御先祖様からいただいた命の尊さを噛み締めて、感謝のお墓参りを実行し、あなたの後ろ姿を見せてあげて下さい。

